

## 自己点検・評価（令和元年度実施）結果

令和2年7月  
自己点検・評価委員会

平成31年度受審の大学機関別認証評価で「内部質保証が優れて機能している」と高い評価を得ており、継続して全学的に自己点検・評価を進め、教育・研究機能向上及び改善に努めていく。

### ▶ 根拠規定等

徳島大学自己点検・評価に関する実施要項により、自己点検・評価委員会は、推進責任者である理事・副学長が所掌する委員会等における内部質保証の状況を毎年度確認するとともに、結果について広く公表することとしている。

### ▶ 確認の方法

各委員会からの報告に基づき確認を行うことを原則とし、必要に応じて根拠資料等の提出を求め、点検・評価方法を含め内部質保証の状況確認を行った。

### ▶ 点検・評価の結果（総括）

推進責任者のもと、各委員会等が定めた実施要項に基づき、点検・評価が実施されていること、また、検出された改善事項については、既に検討又は対応に着手されていることが確認できた。

自己点検・評価委員会では、各委員会等の点検・評価の結果、全学的視点により改善を要する事案について、役員会及び教育研究評議会に報告を行った。

### 《全学的視点により改善を要する事案》

#### ●教育の内部質保証について

大学教育委員会が中心となり、各学部・教育部における教育課程ごとの内部質保証（点検・評価及び改善）が進められているが、点検・評価項目については各学部・教育部に一任されている。

大学組織として内部質保証を進めていく観点から、大学教育委員会において年度ごとに重点的に点検・評価を実施する項目を定め、計画的な取組として実行していく必要がある。

#### ●入学定員の充足率について

大学機関別認証評価においても改善事項として指摘されている、大学院の入学定員の充足率について、継続的な検証及び対策の検討・実施を進めていく必要がある。

## 《特記事項》

### ▶ バリアフリー化の状況

「バリアフリー調査結果一覧表」を作成し、整備状況を可視化することで、不備な箇所について共有が図られている。また、大規模改修等にあわせて整備を実施する計画として対応も進められている。

### ▶ 施設の安全性の状況（外灯の配置状況）

「外灯配置図」を作成し、外灯の配置状況が把握されている。現地調査に基づく点検・評価の結果、一部キャンパスの外周部において暗い箇所が確認されたため、改善点として認識している。また、状況改善に向け、徳島市と外灯増設についての検討に着手している。

### ▶ 学術情報(資料)の整備状況

本学の資料整備費は総額約 2.5 億円となっており、特に電子ジャーナルについては整備費に約 1.7 億円（同規模大学比約 34%高）を充て、充実した環境を提供している。

他の学術資料については整備費、整備数とも他大学と比して少ない状況にあるものの、選書にあたり学生からのリクエストやブックハンティングの取組を強化するなどにより、図書の貸出冊数は他大学と同等程度の実績となっている。

また、図書館アンケートにおける利用者満足度も 88%と高い評価を得ている。

### ▶ 図書館の利用状況及び施設・設備の整備状況

整備費・整備数が他大学と比較して少ない状況にも関わらず、学生 1 人当たりの月間貸出冊数は 0.67 冊（同規模大学平均 0.62 冊）となっている。

### ▶ EDB の学術論文における機関リポジトリ登録率（その他必要と認められる事項）

機関リポジトリによる研究成果論文の公開を促進するため、EDB の学術論文における機関リポジトリ登録率を点検・評価項目として設定し、EDB の機能拡充や RPA を活用した登録促進の新たな取組を行った結果、登録率が 20%を超えている（平成 30 年度は 15%台）。